

調湿
木炭

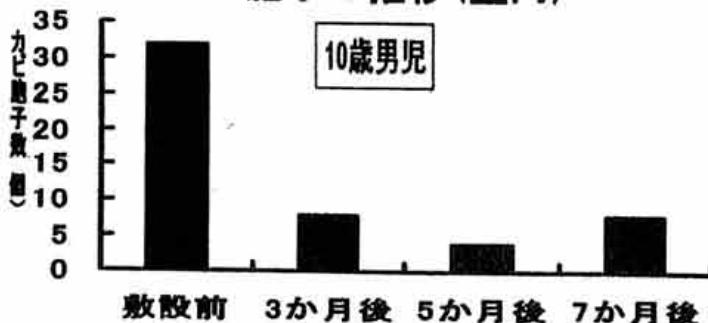
ぜんそくに 効果有望

島根大学医学部小児科助手の竹谷健さん(35)は6日、調湿木炭がぜんそくの要因の一つとされる室内のカビ量を低減させ、小児気管支ぜんそく患者のせきの減少などにつながったとする研究成果を報告した。同学部が島根大学産学連携セ

ンター地域医学共同研究部門と出雲土建と共に取り組んだ研究の中で明らかになった。木炭の小児ぜんそくへの効果が有望視され、同学部では今後、木炭を用いない場合との比較検討などの研究を重ねていきたいとしている。

島根大学医学部などが共同研究

カビ胞子の推移(室内)



同日、同市塩冶町の島根大学産学連携センターで記者発表した。共同研究は、出雲市、斐川町、雲南市に住む三歳から十歳までの小児気管支ぜんそく患者七人を

対象に、二〇〇三年十二月から約二年間にわたって実施。出雲土建の調査で、木炭を患者自宅の床下や天井などに一層当たり八袋(二袋・三キロ)ずつ敷設し、ぜんそくの症状

で記者発表した。根大学産学連携センターで記者発表した。

室内のカビ量減少で症状改善

や呼吸機能、血液検査の推移を検討した。この結果、木炭を敷設してから六ヶ月後のアンケート調査で、せきなど

が減少したと答えた患者が七人中三人、同じく夜間や早朝の症状が減少し

たと答えた患者が三人、学校を休む回数が減少したと答えた患者が五人など、一人の患者を除き、

竹谷さんは、こうした

結果についても「カビが減った時期と治療点数が減った時期が一致している。木炭が部屋の湿度をいい温度に保つことでカビが減り、ぜんそくの子どもにいい影響を与えたのではないか。小児ぜんそくにはいろいろな薬があるが、薬のみでは限界があり、環境要因を減らしていくことが重要。調湿木炭は環境整備をする上で有効な媒体の一つ」と説明。「今後も研究を続け、炭を入れる家と入れない家で比較検討し、症例を蓄積していく」と話している。

ただ、気管支ぜんそくの重症度や発作回数、血液検査のデータなどに改善は見られなかった。他方、木炭を敷設後の室内空気中のカビの胞子数を測定したところ、最も減少率が高かった十歳男児のケースでは、敷設前に三十二個だった胞子数が、三ヶ月後に八個、五ヶ月後に四個、七ヶ月

■木炭敷設後6ヶ月後のアンケート調査

症例	咳・喘鳴	夜間・早朝の症状	室内の咳・喘鳴	定期以外の受診	学校を休む回数
3歳男児	減少	減少	減少	減少	減少
6歳男児	不变	不变	不变	不变	不变
7歳男児	不变	不变	不变	減少	減少
9歳男児	減少	不变	減少	減少	減少
9歳男児	不变	不变	不变	不变	減少
10歳男児	減少	減少	減少	減少	減少
10歳女児	不变	減少	減少	不变	不变